

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100295		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム富士見苑		
所在地	千葉県富津市篠部2310-3		
自己評価作成日	2010/12/10	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakensyakyo.com/Kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	〒277-0062 千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成23年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした居住環境、和気あいあいとした雰囲気、老後を安心して過ごせる「優しさ」と「慈しみ」の心で利用者一人ひとりと接遇しており、笑顔の絶えない毎日を全員でコーディネートしております。苑庭には、四季の草花が咲き乱れ苑内にも利用者が丹精を込めている植物が点在し、利用者と職員が共同で施設環境の向上に努めている。そうした日々の努力により「安心・安全・穏やか」な生活を満喫できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当苑は平屋であるが天井が高く随所に採光窓があり何処もが非常に明るく、天井の梁の木目や床のフローリングは目に優しくぬくもりが感じられる。また、屋内は定期的なハウスクリーニングによって清潔感が漂っている。「安心・安全・穏やか」の運営方針は明るく清潔な住環境といきいきとした明るいサービスの中に活かされている。苑では気候によって富津海岸の遊歩道や富津公園を散歩する。また春には近隣でイチゴ狩り、秋にはぶどう狩りを行い、冬にも水仙ロードへのドライブなど戸外に出かける支援をしていて、それらを広報紙で紹介している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念は、「高齢者の第二の人生の拠り所として日常生活がおくれるように職員は(知識・技術・心)を提供できるよう努める。」更にグループホームの運営方針として「安心・安全・穏やか」をモットーに地域に愛される施設作りを行なっている。	法人の理念及び運営方針は苑内に掲出されるとともに「職員心得」の中に解説され、全職員に浸透していて、「安心・安全・穏やか」の運営方針は明るく清潔な住環境といきいきとした明るいサービスの中に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの諸行事に地域の方々を招待している。普段から地域の人々の来訪も多く、安定した交流の場にもなっている。	篠部地区のゴミ拾い等、町会の行事に参加し地域の一員としての役割を果たしている。苑が開催する諸行事には地域の人たちが多く参加し、2ヶ月に1度程度ボランティアによる日舞が行われる等双方向交流が進んでいる	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用相談のみに限らず、在宅において現在困っている状況に何が必要なのかソーシャルワークを実践する事で地域の人々の相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に地域代表として地元町内会の区長や、利用者家族をを招き、グループホーム運営に御理解を頂けるよう説明を行なっている。	市職員、地域包括支援センター、区長、利用者家族、苑職員等をメンバーとして年に2度開催している。広報誌を配布し、活動報告を行うとともに、出席者から苑への助言を得るなど、苑から地域への助言も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	富津市役所地域包括センターや介護保険課とは緊密に連絡を取り合っており、良好な関係を保持している。	統括管理者は富津市介護保険運営協議会に参加し、定期的に意見交換を行う機会がある。また、介護福祉課や生活保護課等とも連携し、問題発生時には早期解決に向け、対応するなど良好な関係を維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する施設内研修を随時行っており職員は正しい理解をしている。玄関の施錠は夜勤帯のみで、昼間時は出入り自由である。	職員研修及び会議で身体拘束またはその類似行為について詳しく説明し、それらを排除している。また見守りで利用者の安全確保を図るとともに散歩やドライブの機会を多くするなど、徘徊の要因の排除にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する施設内研修を随時おこなっており、正しい理解をしている。利用者同士でも良好な人間関係が構築できるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する施設内研修を随時行っており職員は正しい理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インフォームド・コンセント(十分な説明と理解)の精神にのっとり、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加や日常の面会等で御意見を伺い、利用者処遇の向上に努めている。	運営推進会議や面会時に要望や意見を訊くほか、利用者調査での意見や要望も参考にしている。また、日々利用者の要望や意思表示を汲み取り、利用者の心の平穏が持続ができるよう職員間で認識を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の全職員会議を開催し、個々の意見の吸い上げに努力しており、風通しの良い職場作りに努めている。	ユニットごとの会議で職員の意見を聞き、解決できない課題を毎月27日開催のデイサービスとともに全体会議で検討、その結果をサービス提供に活かしている。情報整理とその共有も周到である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価及び個人面接を実施して、その努力が給与に反映されるようにしている。定期昇給についても日頃の勤務実績に応じた内容になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初心者、中級レベル、上級レベル、管理職レベルに応じた研修を受講する他、日常のOJTでもスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に、介護支援専門員等が来苑した時など職員からの情報を伝達させるなど、交流の場を設けている。他施設の経験者から勤務経験を聴くなど、サービスの向上に向け努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の調査時点で生活歴を把握するなど、情報を入力し、それを職員全体で共有することで新しい環境へ馴染む手助けをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の御家族に信頼を得る事はまず、傾聴し抱えている諸問題の本質を見極める必要がある。良好な信頼関係は十分な説明と同意により支えられている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	タイムリーな援助は状況把握から、最も緊急度が高いサービスを提供するようにしており、「今ここ」が大切であることを理解しサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活をしながら利用者一人一人の能力に応じてやりがいのある共同作業をして頂いており、毎日の日課としてもお互いが欠かせない環境を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの実践に伴い、利用者の現状把握を踏まえ、短期目標や長期目標を理解して頂き、利用者・家族・施設介護計画が三位一体となっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の諸行事や面会などの折に触れ、馴染みの場所等へ出掛けるなど本人固有の思い出を大切に、関係継続への支援を行っている。	地域に結び付いた行事を計画し住民を招いたり、富津公園の散策、東京湾観音への初詣、水仙ロードへのドライブ、地元でのぶどう狩りやイチゴ狩りを行い地域住民及び地域との関係が維持できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のなかで同一空間を共有する仲間として助け合い、励ましあう関係作りを努めており、利用者同士の良好な人間関係の醸成を援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	健康を回復して退所された元利用者の在宅生活を支える意味で必要に応じ本人や家族の支援に努めており、実践されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際に、御本人の生活歴や職業歴などを足がかりに「その人らしさ」をケアプランの中心に捉え、個別の介護計画を立案、実施している。	どのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかなど利用者の意向は、利用者の生活歴や職業歴を足がかりにその把握に努め、利用者の希望が可能な限り実現できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジメントを行う上で一番大切なのは文字や言葉ではなく、御利用者様の本人らしさをいかに把握するかであり、その実現に協力する職場全体の意識を高めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察によりADLの低下や回復もある。そこに適切な援助が加わる事で「今ここ」タイムリーな介護が実践できるようスキルアップ、モチベーションアップに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画は評価と再計画が重要であり、必要に応じ関係者との密接な連絡調整を行うことによりモアベターな介護計画を作成している。	入居時は生活の場が変化することでADLの低下がみられるが、ホームに慣れるに従い上向いてくる。苑では定期的な計画を基本としつつ、その状況の変化に伴い随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録は何時でも閲覧可能で、チーム担当制、グループ担当制の構成員は情報の共有を常に行っている。介護支援専門員への助言も適切に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域密着型サービスの実践施設として、地域の幸福の実現も事業所の役割として心得ている。人的資源、物的資源を広く地域の為に役立てたいと常日頃から思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設は漁師町に近く、人々の結びつきは強い。地域のボランティアグループの活動も盛んであり地域と施設が協働を実践できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとして開業医と協力体制をとっており、更に本人や家族の希望する病院への通院も奨励しており医療の協力体制は万全の体制を築いている。	ホームドクター及び歯科医は定期的及び随時の診察を行って信頼関係があり、利用者の安心感も強いが、家族の希望で従前の病院に通院する利用者も多い。苑でも家族に代わって付き添うことがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスセンターに勤務する看護師に助言や指導を受けながら介護員は適切な介護を行っている。情報の共有が利用者の健康に貢献している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期発見、早期治療、早期退院を目標としており、医療機関との連絡調整は綿密かつ柔軟に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルな状態が近くなった利用者の御家族と緊密に連絡を取り、ホームドクターとも連携を密にし、施設で看取る体制に努力中であり、最後は医師の診断を受けるが施設で可能な事は全て実践できるように心がけている。	家族が希望する場合、ホームドクター及び家族と緊密な連絡をし、他の利用者の支援に支障をきたすことのないよう配慮しながら、ホームで看取る支援体制をとるべく努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や、日常の介護の中で必要な知識と技術を習得しており、緊急時の適切な対応を不安なく実施できるよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練や日々のOJTにおいて職員一人ひとりが緊急対応できるように教育している。緊急通報設備などにも凡例が示されており、落ち着いて避難誘導を実践できる。	苑の避難訓練は消防署の指導のもとに行われている。また、非常時に手際よく避難誘導ができるように、日々の食事メニューを放送で紹介する等咄嗟の放送に備えての訓練を行っている。	災害は突然襲ってきます。苑では消防署及び地元消防団との合同避難訓練を実施したい意向をお持ちですが、1日も早い実現を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者一人一人の人格を尊重し、共同生活のルールをお互いに確認しあいプライドを損ねないよう日々適切な言葉かけを実践している。	「さん」「先生」等敬称を冠すること、個室に入るときは必ずノックをすること等、一人ひとりの尊重とプライバシーへの配慮を基本としつつ、かしまった場面と親しみやすい場面を分別し利用者へ接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の様に自由闊達な会話が交わされており、職員全員が認知症の理解を深めているので利用者自身の自己表出が容易に実現できる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課はあるが、起きる時間も御飯の時間も利用者が自由に参集している。個人の希望を最大限に実現できるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が生きてきた歴史は着衣や所作に現れるもので、〇〇さんらしい装いができるように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特に女性の利用者は、毎日の様に洗い物などを手伝うことが生きがいの様になっている。時には職員と協力しておやつ作成にも関わっている。	合計375歳に達する4人の女性利用者が毎日食器洗いをしている。またお彼岸にはおはぎを作ったりする。日々の献立はグループ内他施設の管理栄養士によるものを利用しているが時には回転ずし等も利用する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎日チェックしており必要に応じてかかりつけ医とも連絡を取るなど利用者の健康を常に観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄など口腔清潔を確実に援助しており、雑菌の繁殖を防いでいるのでいつも爽やかな口腔状態にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をこまめにするなど、一人ひとりの排泄リズムを的確に把握しており、おむつ減らしにも取り組んでいる。	当苑のおむつ不使用者は5名であるが、他の利用者も利尿剤の服用、下剤の服用等個別の傾向及びサインを見ながらこまめにトイレ誘導を行いおむつ減らし、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のように牛乳や食物繊維を多く含んだ食事を提供している。個人向けに各種便秘薬も完備しており、快便・快眠を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日、午後の好きな時間に入浴をお誘いしている。御自分で洗えない部分のみお手伝いしており、満足いただいている。	ユニットごとに個浴があるほか、デイサービス棟を併せると5つの浴槽があり、夫々が非常に清潔に維持されている。またデイサービスの休日には利用者はデイサービスの浴槽など希望する浴室での入浴を楽しめる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝るのも自由、起きるのも自由。椅子に座るのも自由。毎日穏やかに時間を過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートを活用し、今現在服薬している状況を職員全員が理解している。薬効に応じた変化したバイタルはその都度報告し、必要な指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常のレクリエーションなどで毎日楽しくエンジョイしており、趣味・趣向を実現できるように極め細やかなインテークを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に散歩やミニドライブを実施して利用者が閉じこもり気味にならないように臨機応変な援助を心がけており、広報誌に掲載された写真などを御家族も喜んでいる。	気候によって富津海岸の遊歩道や富津公園を散策する。また春には近隣でイチゴ狩り、秋にはぶどう狩りを行い、冬にも水仙ロードのドライブなど戸外に出かける支援をしている。また それらを広報紙で紹介している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に職員と共に買い物に出かけており、好きなものを好きな時に購入できる。依頼されれば外出困難な利用者の買い物も随時行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、入所前までの関係を尊重し、文書などやりとりしている。電話も自由にかける事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMなどは穏やかな曲目を設定し、快適な共有空間を創出している。食堂などは木の温もりを体现できるようレイアウトされている。	当苑は平屋であるが天井が高く随所に採光窓があり何処もが非常に明るく、天井の梁の木目や床のフローリングは目に優しくぬくもりが感じられる。また、屋内は定期的なハウスクリーニングによって清潔感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の端に六畳ほどの小上がりを設け、炬燵テーブルを設置し、集いの空間としている。時には居眠りをする利用者もおり、やすらぎ・くつろぎを実感している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの暮らしの連続線上に個室がレイアウトされるようにアドバイスを行っている。雑然としていてもそれが本人らしさであれば自由である。	居室は洋室と和室があるが、夫々が家具や用具の持ち込み・置き方など好みのままに使用し、整理するも雑然とするも本人の自由だとしている。またこのことによるトラブル等は生じていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物のあり方は利用者の生活の一部になっており、自分に合ったスペースで自由に生活できる体制を整えている。		